

SHOW HEY シネマルーム

★★★★★

10日間で男を上手にフル方法

配給/パラマウント映画、UIP

2003 (平成15) 年8月28日鑑賞

Data

監督：ドナルド・ペトリ

製作：ロバート・エバンス

出演：ケイト・ハドソン/マシュー・マコノヒー

👁️👁️ みどころ

ちょっと手のこんだ「男と女のラブゲーム」だが、正統派ロマンティック・コメディらしく、無事にハッピーエンド。面白いタイトル通りの筋書きだが、果たして「10日間で男を上手にフルこと」は本当にバクチの対象となるのか・・・？ケイト・ハドソンは実にキュートではまり役。今後、『メラニーは行く！』（2003年）のリース・ウィザースプーンとのロマンティック・コメディの女王メグ・ライアンとの跡目争奪戦が見モノ。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<ロマンティック・コメディの正統派系譜>

ニューヨークを舞台としたハリウッド版ロマンティック・コメディの代表選手は何といってもメグ・ライアンとトム・ハンクス。そしてその代表作は、あの『めぐり逢えたら』（1993年）だ。この手の映画はいつ観ても楽しくて面白い。その作り方は大体は女性が主役で、男はふり回されるパターンが多い、従ってたまにはムカツクこともあるが、最後はハッピーエンドが約束されているし、何せ女優がメグ・ライアンやジュリア・ロバーツのような美人で可愛いから許せるというもの。

もっとも最近では、このロマンティック・コメディの分野でも女性優位、女性上位の傾向が強い。最近のリース・ウィザースプーン主演の『メラニーは行く！』（2003年）などはその典型。美人でモテモテで魅力的な女であることは認めるものの、「そこまでスキ勝手なことをやっているのかよ！」と映画の進行中ずっと思って、ムカツク。しかし最後は実にいい女に変身・・・。こんなハリウッド版ロマンティック・コメディの系譜を正統に受けつづけたのが、この作品だ。

<製作は、あのロバート・エバンス>

製作は日本でも今公開中の、『くたばれ！ハリウッド』で描かれているロバート・エバンス。『ある愛の詩』（1970年）、『ゴッドファーザー』（1972年）などを世に送り出して、パラマウント映画を一躍メジャートップの座に押し上げ、さまざまのトラブルを抱えながら、独立後も『コットンクラブ』、『硝子の塔』、『セイント』などのヒット作を作り続けている伝説的（もともと、今も現役）プロデューサーだ（『くたばれ！ハリウッド』の映画評論は洋画03年No64参照）。

<原作のマニュアルを逆活用した映画>

この映画の原作はミシェル・アレクサンダー&ジェニー・ロングの『HOW TO LOSE A GUY IN 10 DAYS』。

これは、男性をつなぎとめておくために、女性が決してしてはならないことを記したものだ。いわば、女性の恋愛成就のための何箇条を掲げたものであり、「禁止マニュアル」本だ。この映画は、この、女性にとっての「禁止マニュアル」を、「10日間で男を上手にフルため」に、女主人公が、逆活用するわけだ。

例えば、そのテクニックは

- ①スポーツ観戦中、試合が最高に盛り上がったところで飲み物を買に行かせる。
 - ②デートムービーには女性向けのプログラムを選び、映画の最中に「いま何を考えているの？」とひたすら話しかける。
 - ③彼が肉料理を作ってくれたら、すかさず「私、お肉がダメなの」と言ってトイレに駆け込む。
 - ④男性同士の集まりに手料理持参で乱入し、世話女房を気取る。
- など、何ともイヤな女・・・。

<この映画が成り立つ前提は・・・？>

しかし考えてみれば、単純に男をフルだけならもっとエゲツない方法はいくらでもあるはず。このミシェル・アレクサンダー&ジェニー・ロングの原作本の逆活用の映画が成り立つのは、「男が彼女にメロメロになっている」という前提があるからだ。そうだからこそ、メロメロにさせた男を振っていくプロセスが面白いわけだ。

この映画の女主人公アンディ（ケイト・ハドソン）は、本当は政治、経済、社会を真正面から論評したいと思っている才女だが、今はハウ・ツーものの担当。しかし、そこでも十分な才能を発揮している。女性誌の人気執筆者という 트렌ディな職業だ。

このように若くて美しく、かつ行動的なキャリア・レディという設定だから、男はいくらでも近寄ってくるという自信がありあり！イッパツで男をメロメロにさせたうえで、10日間でこの男を上手にフル方法を、自己の「突撃体験」を踏まえて記事にするわけだ。

ちょっと真面目に考えたら、かなりヤバい企画・・・？

さらによく考えてみれば、10日間で男を上手にフルことができるかどうかというバクチは本当に成立するのだろうか・・・？大いに疑問ありだ。

また、「テキ」(男性)もさるものだ。

「テキ」のハンサムボーイのベン(マシュー・マコノヒー)も広告代理店勤務のバリバリの実力派の野心家。そして「ハッキリ言っておくけど、ボクは女が大好きだ」というほどの自信家。10日もあれば女をメロメロにさせることなど朝飯前、と思っているわけだ。

従って、「10日間で女をメロメロにさせ、10日後のパーティーに恋人として、彼女を連れてくることができるかどうか」は、当然バクチとして成立するものだ。

<難しいことを言うのはやめて、楽しもう・・・>

私は頭の中ではそんな難しい「バクチの成立する条件の可否」を考えながらも、スクリーン上でのアンディの魅力にはうっとり。当然ながら、筋書き通りアンディとベンとはたちまち恋におちた・・・？

もっともこれが2人の「恋の駆け引き」の始まりだが・・・。いったん持ち上げた上で、ゆっくりと10日間かけてこれを落としていくアンディは、前述のマニュアルを逆活用していけばいいわけだが、「ボクにぞっこん！」と信じ込んでいるベンは振り回されて大変。しかし10日後に恋人としてパーティーに同行しなければバクチに敗けてしまう。だから、ベン是我慢に我慢を重ねていくが・・・。

この2人によるロマンティック・コメディの展開は本当にお見事！

アンディのキュートな魅力を十分に楽しもう。

<もう少し欲しい・・・タネ明かし>

10日後のパーティー。

女性誌の企画の趣旨に沿えず、本心からベンを愛してしまったアンディは、美しいドレス姿でベンと共にパーティー会場へ。ところが、このパーティー会場で、アンディと同じように実はベンもアンディとの恋愛の成就がバクチの対象であったことが判明してしまった。さあ大変。怒り狂うアンディ・・・。その怒りは当然だろうが、男の私に言わせればお互いさま・・・？

しかしロマンティック・コメディの結末はハッピーエンドというのが約束ゴト。従ってそれなりの結末が用意されている。それはそれでいいのだが、私が不満なのは、アンディが書いた記事の内容が、映画ではよく分からないこと。アンディの書いた記事は、編集長から「出来すぎるほどよく出来ている」と誉められて無事掲載されたが、実はその記事の内容が私には読めない。なぜならスクリーンに写るその雑誌は、当然英語で書かれているから。そしてそれが字幕スーパーに表示されないから。こんなわけで、この記事を読んだ

後ベンの行動が一変するのがなぜなのか、がもう1つはつきりしないわけだ。

もちろんその記事は、面白おかしい、ハウ・ツーものではなく、アンディの本心を露呈したものだという想像はつくものの、一体どんな記事になっているのか、その全文を知りたいものだ。なぜなら、それによって、アンディという女性の本当の魅力がもっと分かるだろうと思うから。

<楽しいな主役の2人>

女には自信があり、思いどおり、女をメロメロにさせたつもりだったにもかかわらず、逆にイライラの毎日を過ごす羽目になるベンを演ずるのは、黒人少女のレイプ事件を描いた1996年の『評決のとき』で見事な弁護士を演じたマシュー・マコノヒー。彼はその後、『アミスタッド』（1997年）でも、シリアスな役を演じた演技派だが、最近ではジェニファー・ロペスと共演した『ウェディング・プランナー』（2001年）でロマンティック・コメディにも挑戦している。そして、本作でも実にいい味を出している。新境地開拓といったところか・・・。

他方、魅力いっぱい女主人公アンディを演ずるのは、1979年生まれのカイト・ハドソン。2000年の『あの頃ペニー・レインと』で一躍世界の注目を浴び、『サハラに舞う羽根』（2002年）では、2人の男性から愛される女主人公として登場している若手の注目株だ。『メラニーは行く！』の主演女優であるリース・ウィザースプーンと共に、メグ・ライアン跡目を継ぐ今後のロマンティック・コメディ映画の主役の座の争奪戦を注目したい。

2003（平成15）年8月29日記